

## 第15回 安全安心を考える分科会 概要

平成 19 年 7 月 10 日(火) 13 時～14 時 30 分

角筈地域センター 7 階会議室

< 出席者 > 栗原、廣川、秋田、井上、冥賀、山田、只野、米山、大館、石橋、西江

### 1 分科会リーダー挨拶

### 2 議事

#### 東京医大シンポジウム報告

事務局より、7月4日(水)に経団連ホールにて開催された高層ビル災害シンポジウム「高層ビル災害 都市型病院の役割」の報告を行った。また、参加した大館・井上両委員にも報告をしてもらった。その報告に対しての意見・感想も他委員よりあった。

・災害時においては、医療従事者だけではなく地域のボランティアの力が必要だと言っていたことが、印象に残った。

・通常、病院内では医師が指揮を執るが、災害時等の非常時は誰が指揮を執るかが問題になってくる。アメリカでは非常時に看護師が指揮を執り、医師は治療に専念するという形を取り、素早い対応が出来たとの報告があった。日本の場合はどうかということ、医師・看護師に尋ねたところ、「同じように看護師に指揮を執って欲しい」という意見があった。

・上記意見を受け、病院ではなく、地域で非常時にリーダーシップを取るの、普段から訓練をしている消防団がやると良いと思うといった意見が出た。

・新宿で平日に災害が起こった場合、15万人にも上るといわれている帰宅困難者に対しての対応は、組織として動いているので、具体的になったら報告したい。(新宿区と東京都の共催で新宿駅帰宅困難者対策協議会というものがある。)

・地区協でも、災害時のシミュレーションを行ったほうが良い。

#### 「安全安心・生活便利帳」の作成について

どのようなものが良いか？

- ・誰がターゲットか？ 大人がメインで、それを子供に伝える形が良い。
- ・これひとつあれば大丈夫というものを作りたい。
- ・今までの便利帳は便利ではない。
- ・何かしなくちゃいけないと思わせるもの・アピールするものを作りたい。
- ・漫画っぽいもの・わかりやすいものが良い。
- ・写真や絵をたくさん入れたほうが良い。
- ・開業医の場所・医療機関の場所がわかるものが欲しい。
- ・項目別に、ひとめでわかるものを作りたい。
- ・内容ごとに区切って、開くとすぐにわかるものがよい。
- ・一目でぱっとわかるものをつくる。
- ・字が小さいと、それだけで見ない。

- ・読むのが大変 字の大きさ、時間の無さ。
- ・全部の人がわかるものを作ることは難しい。
- ・地域の便利屋さんがあると良い。
- ・周囲の方たちから、身近なことを色々聞かれることが多い。
- ・インターネットのほうが便利。しかし、皆が皆、ネットができる環境にあるわけではない。
- ・HPに掲載する。また、携帯電話でアクセスできるものも必要では。
- ・今まで作ったものを、次に活かしていく。
- ・何を載せるかの絞込みが大変だが、重要である。
- ・そこに聞けばすぐにわかるものでなくても、その先を案内できるような仕組みのものを。
- ・相談機関と連携できるもの。

参考資料として 10 年前に作った「防災点検マップ」、落一の「べんりマップ」、渋谷区の「わが街くらしのガイドマップ」を回覧した。

便利帳作成の参考にするので、他地区に出かけるときは、地域マップ・便利帳のようなものがあったら、もってきてくださいと委員の皆さんに依頼した。

その他

地域交流の分科会が作った「わいわい交流！第5号」についての意見・感想

- ・外国語版を作ると良い。
- ・立体的な地図がとてもよい。
- ・ホテルに置いてもらったら？

高層ビル街ミニツアーについて

- ・7月12日(木)に実施します

### 3 次回会議日程

8月はお休みです

- ・日時:9月19日(水) 13時～
- ・会場:地域センター 会議室B